

「目標を持ち、あきらめずに頑張れば絶対に出来る」ことを、  
私がモデル(お手本)になって示していきたい。



長浜市教育委員会 巡回指導員、医療通訳

呉屋 とよ子さん

■呉屋さんはとても日本的なお名前をお持ちですね。

父方の祖父が沖縄出身で、父も仕事で日本と関わりを持っていたので、いずれ日本に来ることも考え、生まれた時に両親がセカンドネームとして日本名もつけてくれました。亡くなった祖母の名前でもあるんです。

■来日された頃の日本(長浜)の印象と、文化や習慣の違いを感じたことを教えてください。

まず町が静かなことに驚きました。出身地ペルーの首都リマは人が多く、とても賑やかだったので。

文化や習慣では、小学校の集団登校です。母国にはない習慣なので。給食も見たことのない色、味、形の食べ物を不思議に思いながら食べていました。

■当時はまだ外国人児童も少なく、ご苦労も多かったと思うのですが。

当時は学年で私一人、一年下に一人だけで、翌年3~4人が入学し、やっと指導員さんがきてくれました。それまでひらがな、カタカナも全然書けなくて、マンツーマンで教えてもらい書けるようになりました。勉強以外の話も聞いてもらえるのが嬉しかったです。当時は日本語教室が心のよりどころで居心地のいい場所でしたから。

■指導員として働きながら、さらに教員免許の取得を目指そうと思ったのはなぜですか？

短大卒業後、自分が支援してもらったことを思い出し、同じように支援する側になりたいと思い、巡回指導員になりました。最初はNAGOMI教室(初期指導教室)でしたが、昨年から小学校に行くようになり、「小学校の先生もいいな。私もこういうことがしたい」と思ったの

がきっかけです。

やはり、その子の将来を考えた時、きちんと勉強も教えることができれば、もっと力になれると思います。最近では、どうしたらその子が教室に馴染めるか、その難しさも感じていて、模索しているところなんです。

■ご自身が子どもの頃、印象に残っている先生はおられますか？

小学5年生の時の先生です。クラスのみなどと馴染めるように、いろいろなことをしてくださいました。日本語教室に通っているとクラスにいたり、いなかったりするので、クラスメイトも私と関わりにくい雰囲気だったんです。そこで先生が「もう話せるようになったから行かなくていいよね」と切り離されました。最初は寂しかったけれど、それがきっかけでクラスのみなどと仲良くなったので、後になって「あれは自分のためだったんだな」と気付きました。厳しいけれど愛情のある先生でした。

■働きながら大学に通うことで、新たに感じる事はありますか？

私の場合、大学で学んでいることを、指導員の仕事を通して現場で実践できるので恵まれていると思います。自分の子ども時代は、先生に対して思うこともいろいろありましたが、同じ立場になってみると、その難しさや大変さがわかります。

日本では集団意識が強く、少しでも人と違うと浮いてしまう印象があります。だから私自身も子どもの頃、お弁当や持ち物をみんなと同じになるよう気を遣っていました。違いを受け入れることは大事で、違っていてもいいとは思いますが、日本の「お弁当」とはこういうもので、学校に必要な道具はここで買えるという情報も、教えるようにしています。

●プロフィール●

ペルー共和国出身。父親の仕事の関係で10歳の時に母・兄・弟と共に来日。小学校、中学校、高等学校を経て、短期大学へ進学。卒業後は母国語のスペイン語を生かし、外国人児童生徒を支援する巡回指導員として、また、病院で医療通訳としても活躍中。今年4月からは教員免許取得を目指し、滋賀文教短期大学へ進学。仕事と学業で忙しい毎日を送っている。長浜の観光名所・黒壁周辺は毎日の犬の散歩コース。今後はピアノや書道も習いたいという向学心に燃える行動派。

■医療通訳としても活躍されていますね。

以前から「病院についてきて」と頼まれることも多く、やるならきちんと勉強しようと思いました。母国語のスペイン語の勉強にもなるので。難しい言葉も多く、辞書を片手に勉強しながら取り組んでいます。日々新しいことを学び、喜んでもらえるので、とてもやりがいを感じます。

■日本に住む外国人の子どもたちに、伝えたいことは？

母国に「帰りたい」と言う子もいます。それを駄目だとは思わないけれど、せっかく日本にいるのだから、このチャンスを生かし、いろいろなことを学んで欲しい。社会人になれば好きなことばかりではなく、嫌なこともたくさんあります。それを乗り越える力にもなり、頑張ったことは必ず役に立ち、将来の仕事の幅も広がります。

私もまだ自信を持っていないことが多いけれど、いま頑張っていることが将来どこかで「やってよかった」と思えると信じています。だから、「目標を持ってあきらめずに頑張れば何でも出来る。なれるんだよ」ということを、私自身がモデルとなって伝えていけたらと思います。